



ウィズレポート

Vol. 01

一般社団法人くらしサポート・ウィズ 東京都新宿区大久保2-3-4 出光新宿ビル4階 TEL:03-6205-6719 FAX:03-3200-6134 <https://www.kurashidial.or.jp/> 2020年11月発行

理事長あいさつ

日頃より、くらしサポート・ウィズの事業活動をお支え頂きましてありがとうございます。
これまでメールマガジンで活動や企画の案内等を行ってききましたが、取り組みを分かりやすくお伝えし、更に理解を広げるためにレポートを発行する事になりました。つながりの希薄化や経済的な行き詰まりを感じる中、追い打ちをかけたコロナ禍で『くらしの相談ダイヤル』へは過去最多の相談が寄せられています。昨年度からは、居住支援や奨学金伴走支援等、困りごとに対する具体的な事業も広がっています。お読みいただき関心を寄せていただけたら幸いです。

理事長 吉中 由紀



相談事業

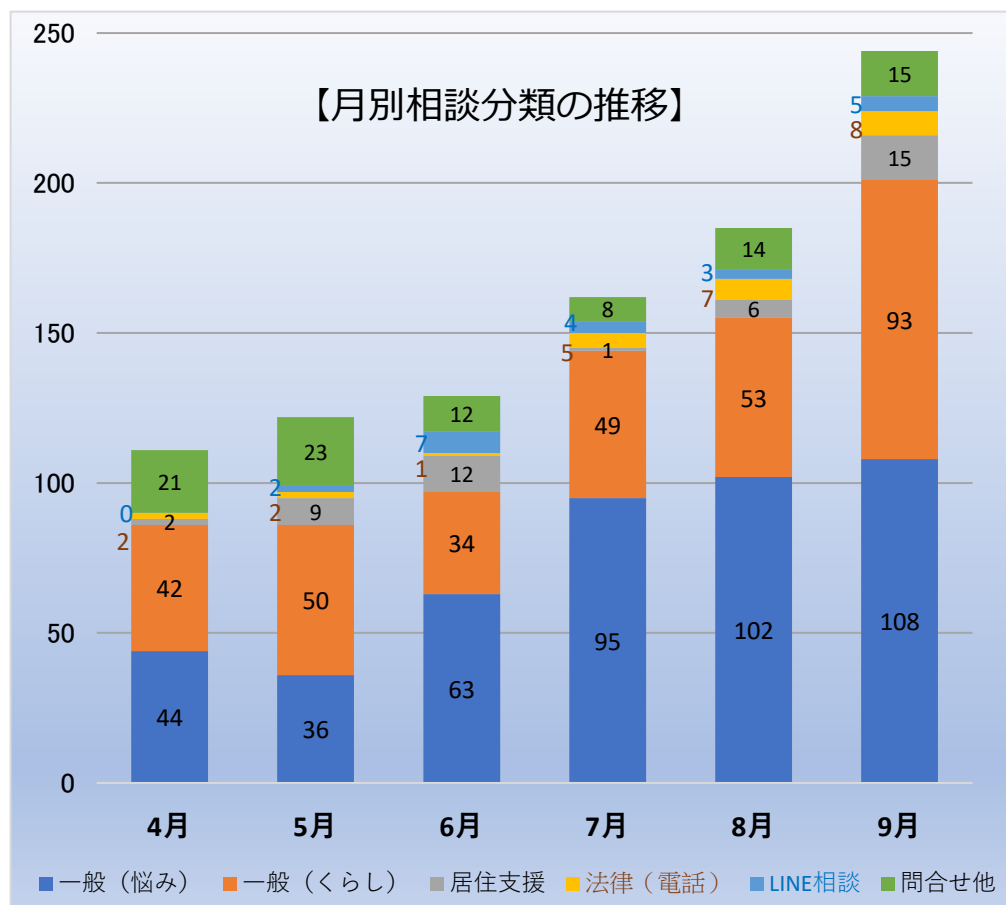
2020年度上期相談件数 **953件**

「新型コロナウイルス」に関連した相談は毎月30件
夫婦間不和、成人した子のなやみ、近隣とのトラブル相談増加

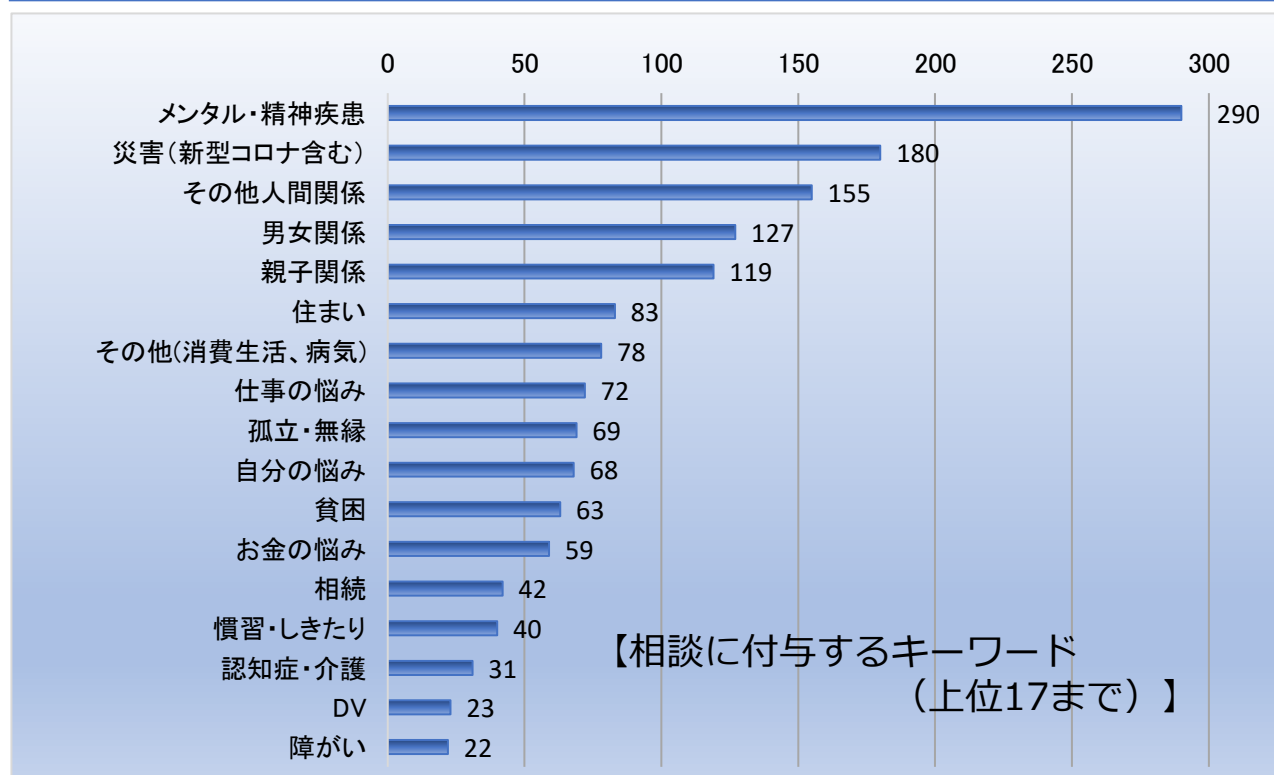
上期は新型コロナウイルスによる相談件数への影響が大きくありました。

2020年度上期の相談件数は953件（対前年比103%）ですが、感染拡大の不安が広がったステイホーム期間の4月～6月は減少し、ウィズコロナへと意識が変わってきた7月以降徐々に増え始め、9月は過去最高の件数になりました。

相談内容も、6月くらいまでは新型コロナに直結した不安や悩みが多く、7月以降は新型コロナウイルスが少なからず影響したと考えられる、家族との問題や生活の変化で生まれた悩みなどに変化してきています。ウィズでは、相談者の気持ちによりそい、少しでも不安や悩みが解消するように心掛けて対応をしています。



- ・ 50代～70代生協組合員からの子の悩み相談増加。
- ・ 離婚、別居、モラハラ相談も増加傾向。



～家族が家にいて、電話がかけにくい方に向けて～

『くらしの困りごとLINE相談』をはじめました

5月末から期間限定で「くらしの困りごとLINE相談」を実施し、5週間で9件の相談があり、うち8件がパルシステム組合員からの相談でした。

昼間は仕事で忙しく電話をできない30代、40代や、電話よりもSNSの方が相談しやすいと思われる組合員からの利用が多かったため、7月以降もLINE相談を継続しています。

* LINE相談は、1案件につき原則1回のみ回答しています。

居住支援事業

居住支援法人の活動

住まい探し＆住まい活用に困った方のお手伝い

2019年8月に東京都より「住宅確保要配慮者居住支援法人」に指定されました。
ホームページの相談フォームやお電話からの相談を受けていますが、その他に東京都居住支援協議会や国土交通省の相談窓口から紹介された相談者もいました。
今年度は新型コロナウイルスの影響があり、相談者との面談は屋外で行うなど工夫をしながら居住支援事業を行いました。
4月から9月までの半年で40件の相談があり、民間賃貸住宅への転居3名、施設転居1名の支援を行いました。

また、10月には居住支援活動の認知度向上と相談数を増やすことを目的にセミナーを開催しました。空き家・空き室の有効利用へのニーズは大きく、特にパルシステム組合員からは、高齢者や障がいのある方へ利用してもらいたいがどうしたら良いか等の相談も多くありました。

住まい探しのお手伝いについて

くらしサポート・ウィズについて

くらしサポート・ウィズでは「くらしの相談ダイヤル」を中心とした相談業務を行っています。日々のくらしの心配や不安、生きづらさに悩む方々の相談を受けながらその解消につとめています。これまで相談業務で培ったスキルを活かし、設立母体でもあるパルシステム連合会や生活クラブ生協・東京をはじめ、ネットワーク団体と連携しながら、住まいに関する「困りごと」の相談や住まい探しのお手伝い、くらしの見守りなど、くらしにさまざまな不安や問題を抱える方々をサポートしています。

居住支援法人とは

空き家等を活用し、居住環境に配慮の必要な方に対する住宅セーフティネット機能の強化を図ることを目的に、2017年に改正「住宅セーフティネット法」が施行されました。居住支援法人とは、住まい探しにお困りの方（被災者、高齢者、障害者、子育て世帯など）の困難を軽減し、住まい探しにスムーズに入居できるように、地方公共団体、不動産関係団体、居住支援団体等と連携し、借りたくてもなかなか借りられない人と賃貸したい人に対して、住宅情報の提供等の支援をする組織です。くらしサポート・ウィズは2019年に東京都から居住支援法人に指定されました。

くらしサポート・ウィズができること

生活上のお困りごとを抱え、住まい探しをしている方のご相談に寄り添います。協力している居住支援法人や不動産会社と連携しニーズに合った物件をご紹介します。

☆電話やメール、面談による相談対応（相談者本人、行政、支援機関など）
☆他の居住支援法人や不動産会社と連携し情報提供、マッチング、同行支援等
☆福祉的支援を必要とする相談者に対して行政、福祉団体と相談連携
☆入居後も支援を必要とする方に対しては見守りや生活支援

居住支援専用の相談電話 03-6233-8260
（開設日時：月～金）10:00～16:30（土日・祝休み）
※費用に限りではありません
※個人情報保護の取扱いをおこなっています



『空き家・空き室困りごと解決セミナー』を開催しました

10月10日（土）「空き家・空き室困りごと解決セミナー」を開催しました。会場とオンラインで参加者を募集し、27名（申込み39名）が参加されました。

参加者からは、「空き家に対する居住支援活用について大枠で理解ができた」「今後の活用法を考える端緒につくことができ、良かった」等のご意見をいただきました。



◀株式会社あんど西澤氏にご講演いただきました



▲台風が近づく中、多くの方にご参加いただきました

《居住支援相談事例：DV避難》

彼氏からひどいDVを受けた。引っ越し先を急いで見つけたい



生活保護受給者のため、DV避難案件として行政のケースワーカー、不動産会社と連携して物件探しと各種手続きを支援。メンタル面でのフォローも行いました。
現在転居先が決まり、引っ越しをしました。生活保護を受けずに生活したいという希望があるため、見守りと就労支援を行っています。

【月別居住支援相談】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
住まい探し	0	8	3	1	6	5	23
住まい活用	1	0	4	0	1	4	10
見守り	0	0	2	0	0	0	2
その他	2	0	0	0	1	2	5
計	3	8	9	1	8	11	40

一般社団法人全国居住支援法人協議会 事務局の活動 居住支援法人の活動支援や国・行政機関と課題協議

昨年度から引き続き行う居住支援法人研修会に加えて、新たに居住支援法人リーダー研修会、居住支援法人テキスト作成、恒久的な居住支援の仕組み構築に向けて2つの調査・研究事業に取り組んでいます。

広がる事業への対応と機関運営強化のため、ウィズから新たに役員を一名派遣し、担当職員を増やしています。全居協事務局業務を通して得た居住支援の知見はウィズ全体へ効果が波及しています。

研修事業を通じたネットワークや居住支援法人からの相談事業を通じて全国の居住支援法人をサポートし、調査・研究事業から見えてきた課題は政策提言に繋げていきます。

会員数は182団体になりました。※2020年9月現在（個人賛助22名含む）

人材育成事業

「協同を学ぶ」つながりインターンシップ@協同

若者の生きづらさの根底には、「協同体験の少なさ」や「人間関係の希薄化」があるとの仮説を立て、2014年度から「協同を学ぶこと」を核にした人材育成に取り組んでいます。特徴は、学生、教員、団体が共に考え・学び「協同を発見する」ことです。

参加学生：2020年度インターンシップ生18名（募集20名、応募18名）、過年度インターンシップ3名

参加大学：8大学9学科（駒澤大学、静岡県立大学、中央大学、日本大学、法政大学、明治大学、目白大学、立教大学）

参加団体：受入団体17、協力団体3

《今年度のインターンシップの特徴》

新型コロナウイルス感染症の拡大防止により大学では体験を伴う授業が全部中止になりました。そこで、これまでインターンシップに関わってきた大学教員、キャリア支援室、受入団体、協力団体に呼びかけ、意見を交換しました。結果、協同組合や社会的企業はコロナ禍という困難な状況の中、どのような事態に遭遇し、エッセンシャルワークと言われる現場ではどのような実態があり、そこに協同やつながりがみられるのかどうかを学生が学び、記録することに価値があるという意見でまとめ、WEBのみを活用した調査型インターンシップを実施することになりました。

【成果】 新型コロナウイルス感染症という非常事態から、

- ①孤立した大学生の状況を何とかしようとする、教員や団体の協力関係がより強くなったこと
- ②プログラムのづくりから必然的に、学生が能動的に関わらねばならなくなり、主体性が育まれたこと
- ③新旧インターン生（学生）の交流が進み、「集う場」ができたこと
- ④オンラインの良さを発揮したe-ラーニング型のインターンシップ・プログラムの構築になったこと

学生チーム（3名ずつ）	学生チームの調査担当先
金融系チーム	城南信用金庫、ろうきん中央機関グループ(3団体)
農協系グループ	J A さがみ、J A 神奈川県中央会
生協系①グループ	生活クラブ・東京、生活クラブ・神奈川、（株）オルター・トレード・ジャパン
生協系②グループ	パルシステム連合会、パルシステム東京、パルシステム埼玉、パルシステム神奈川
労協系グループ	日本労働者協同組合連合会、（一社）ワーカーズ・コレクティブ ぷろぼの工房
社会的企業系チーム	（社福）ふきのとうの会、（NPO）ユースコミュニティ

奨学金伴走支援

2019年10月から「パルシステム給付型奨学金モデル事業伴走型支援」を受託しています。

学びの意欲をもちながらも、経済的・社会的に困難な状況にある学生を対象に、月4万円を給付するとともに、生活面や精神面の伴走支援、社会学習の場への参加などを提供する制度です。

2019年度対象者についてはウィズが直接、2020年度対象者は信頼関係のある協力団体と共に支援しています。

対象学生：4名(2019年度2名 2020年度2名)

2019年度奨学生のうち、4年生(女性)は将来の目標に向けて、必要な実習を終え、資格試験にも無事合格をしました。面談では「奨学金があることでアルバイトに追われずボランティアに行けることがうれしい」という話がありました。

2020年度奨学生は2人とも1年生で、新型コロナの影響で 前期はオンライン授業のみということでした。大学での授業や交友関係作りができないこと、思うようにアルバイトができないことなどに心のバランスを崩す奨学生もいました。



その他の活動

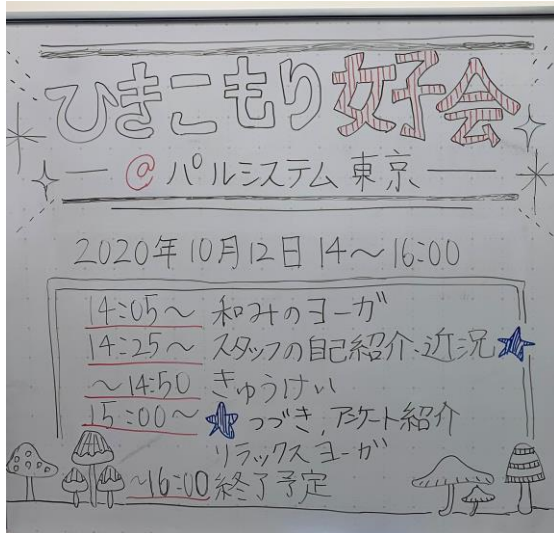
ひきこもり女子会 @パルシステム東京

10月12日（月）、8カ月ぶりの「ひきこもり女子会」をスタッフ含め20名弱で静かに開催しました。

コロナ禍での開催のため、グループトークは行わず、「和みのヨーガ」でゆるやかに心と体をほぐし、当事者スタッフからの近況報告や参加者のメッセージ（当日記入）紹介を行いました。

40代、50代が半数以上で、主婦、お子さんがいる方の参加もあり、『コロナ禍で家族が家にいて息苦しかった』『感染したらどうしようという不安で最近まで外に出られなかった』などの発言に、大きく頷く姿もみられました。

参加者からは「安心感と共感を得られました」「パルシステムのおかげで何とか居場所ができています」などの感想がありました。



社会的養護下の若者支援

2020年度若者おうえん基金

クラウドファンディング実施中！

目標金額300万円（11月26日まで）

右のQRコードまたは下のURLから寄付できます！



<https://readyfor.jp/projects/wakamono2020>

◎第2回若者おうえん基金活動報告会（7/4）

◎第3回若者おうえん基金 シンポジウム（10/3）

どちらもオンラインで開催しました。

就労キャリア支援

「2020年度体験就労プログラム」を8月から開始し、自分で仕事を探すのが難しい若者を、協同組合等のたすけあいの組織の体験就労につないでいます。これまでに3名の若者のマッチングを行いました。

※首都圏若者サポートネットワークは「社会的養護の下に暮らす子どもたち等の多様な自立を、伴走者と共に支援することで、自分の人生を切り開く一助とすること」を目的に活動しているネットワーク組織です。ウィズは共同事務局を担っています。



Information

電話法律相談のご案内（パルシステム組合員限定）

★ 暮らしの無料法律相談（毎月第4水曜日13～16時）

相談員 松本 美代子弁護士

心理カウンセラー経験のある弁護士が、相談者に寄り添った相談を受けます。

★ 女性のための電話法律相談（不定期開催）

相談員 田中 記代美弁護士

結婚・子育てでさまざまな苦労を乗り越えた弁護士が、自身の経験をもとに寄り添い、離婚・DVなど男女関係の相談を受けます。

*いずれも相談料無料。事前予約制。お申込みおよび日程はホームページをご覧ください。

新入職員の紹介

甲野 順

4月入職



居住支援事業と奨学金事業を担当しています。これまで生活困窮者支援や不動産・医療関係の仕事に携わってきました。コロナ禍でより一層の支援ニーズの高まりを感じています。趣味は寄席に行くことです。

増田 直子

8月入職



職場の皆様へ暖かいご指導を頂きながらあっという間に3ヶ月が経ちました。居住支援は未知の分野でしたがいただいたご縁を大切に、学び精進していきたいと思います。趣味は舞台観劇と、なにより食べることが大好きです。

暮らしサポート・ウィズの最新情報はホームページをご覧ください！



暮らしの相談ダイヤル

検索